

仮想環境で使用する マイクロソフト サーバー製品のライセンス

この簡易ガイドは、すべてのマイクロソフト コマーシャル ライセンス プログラムに適用されます。

目次

概要	1
この簡易ガイドの更新内容	1
ライセンス モデルと関連する仮想化の権利の概要	2
実行するインスタンスごとのライセンスの取得	7
ソフトウェアのインスタンスの移動	8
ソフトウェア ライセンスの再割り当て	9
複数の OSE を使用するクライアント デバイスの ライセンス取得	10
管理 OSE ごとに、またはユーザーごとにも供与される管理ライセンス	10
サーバー以外 (クライアント) に必要なライセンス	11
その他のリソース	11

概要

この簡易ガイドでは、仮想環境におけるマイクロソフトのサーバー 製品の使用権の概要について紹介します。この資料は、Microsoft Hyper-V テクノロジー、VMWare と Parallels が提供するサードパーティ製の仮想化ソリューションなどの仮想化テクノロジーを使用するマイクロソフト サーバー製品の使用方法を把握するために役立てていただけます。

本ドキュメントに記載されている情報の多くは、マイクロソフト コマーシャル ライセンス以外のチャンネルで購入したライセンスにも適用されますが、適用される内容に一部違いがあります。このため、マイクロソフト コマーシャル ライセンス契約以外の方法でライセンスを取得した場合は、ソフトウェアに付随するライセンス条項を参照することをお勧めします。

この簡易ガイドの更新内容

この簡易ガイドは、2016 年 6 月に発行されたバージョンの簡易ガイドの代わりとなるものです。このガイドの内容は、Windows Server 2016、System Center 2016 および SQL Server 2017 に関する更新が反映されています。

また、最新の事実に基づいたトピックになるよう内容を改編しています。特定の マイクロソフト サーバー製品の関連情報として、参考になる外部リンクも追加しています。

ライセンス モデルと関連する仮想化の権利の概要

次の表は、ライセンス モデルと、ライセンス モデルに対する仮想化の影響についてまとめたものです。このガイダンスは、お客様のマイクロソフト コマーシャル ライセンス契約および製品条項に記載されている権利と義務について細かく説明するものではありません。詳細情報を確認するためのその他のリソースへのリンクを本書にて提供しています。

このガイドでは、仮想マシン上のソフトウェアまたは仮想マシンの使用について説明します。マイクロソフトのライセンス用語では「仮想オペレーティング システム環境または、仮想 OSE」と呼びます。また、その環境で実行されているホスト オペレーティング システムおよびアプリケーションは、「物理オペレーティング システム環境または物理 OSE」と呼びます。

製品	ライセンス
ボリューム ライセンス 製品条項 の各 マイクロ ソフト サーバー ライセ ンス モデルに含まれる すべての製品 例： Windows Server 2016 Exchange Server 2016 SQL Server 2017	<p>ソフトウェアの使用がマイクロソフト ライセンス モデルでどのようにサポートされるかを十分に理解するには、ライセンス関連の用語を知っておく必要があります。たとえば、ソフトウェア ライセンス¹の使用条件 に規定されているのは、特定のサーバーで同時に「実行」できるソフトウェアの「インスタンス」の数です。お客様のサーバーに「インストールして使用」できる「コピー」の数ではありません。仮想マシンおよびワークロード モビリティの観点から使用権について説明する際には、物理サーバーに「コピー」を「インストールして使用」するという考え方から離れる必要があります。</p> <p>また、「インスタンスの作成と格納」について説明すると、お客様のサーバーまたは記憶媒体へのソフトウェア インスタンスの作成と格納は、ソフトウェア ライセンスによって許諾されています。格納されたインスタンスはライセンスとは関連付けられないため、ソフトウェアを「実行」するまではライセンスを割り当てする必要はありません。</p> <p>サーバー ソフトウェアのインスタンスを「実行」する前に、サーバーに 1 つまたは複数のライセンスを「アサイン (割り当て)」する必要があります。必要なライセンスの数は、ライセンス モデルおよびユース ケースによって異なります。各ハードウェアのパーティションまたはブレードは別個の物理ハードウェア システムであるため、ライセンス上はそれぞれ別のサーバーと見なされる点にご注意ください。ライセンスが割り当てられているサーバーは、「ライセンス取得済みサーバー」といいます</p> <p>「ライセンス取得済みサーバー」を複数所有している場合、実行されているワークロードに対応したライセンスがそれぞれのサーバーに適切に付与されていれば、そのサーバー間でワークロードを柔軟に移動することができます。ワークロードの移動にライセンスの移動が必要な場合は、一般的に、サーバー製品のソフトウェア ライセンスは再割り当てできますが、短期間で (最後に割り当てた日から 90 日以内に) 再割り当てを行うことはできません。(注：ハードウェアの恒久的な故障のためにサーバーを廃棄する場合は、この期間内のいつでもライセンスを再割り当てすることができます。) より柔軟かつ頻繁にライセンスを移動していただけるように、マイクロソフトでは「ライセンス モビリティ」の権利を提供しています。「ライセンス モビリティ」の権利は、ソフトウェア アシュアランス特典としてご利用いただけます。1 つのサーバー ファーム内のサーバー間でライセンスを移動できるサーバー ファーム間のライセンス モビリティは、ライセンスモビリティの権利の一部です。通常「サーバー ファーム」には、最大 2 つのデータセンターを、タイム ゾーンの時差が 4 時間以内の場所に配置できます。これにより、お客様のデータセンター内でのワークロード モビリティがサポートされます。これらの権利については、製品条項の付録「ソフトウェア アシュアランス」に記載されています。特定の製品でこれらの権利が利用可能かどうかを確認するには、製品条項の各製品セクションのソフトウェア アシュアランスについての記述を参照してください。</p>

¹ソフトウェア ライセンスはサーバー ソフトウェアのライセンスを指します。製品を適切にライセンスするには、別のライセンス (クライアント アクセス ライセンス、エクスターナル コネクタ ライセンス、管理ライセンスなど) が必要になることがあります。ボリューム ライセンス製品条項を参照してください。

製品

ライセンス

[製品条項](#)のマイクロソフト コア ベース/CAL ライセンス モデルに含まれる製品

例：

Windows Server 2016

コア ベース/CAL ライセンス モデルでは、「物理コア」ごとに Windows Server オペレーティング システム ソフトウェアにライセンスを割り当てます。この簡易ガイドでは、仮想化テクノロジーを使用する Windows Server の場合にライセンスにどのような影響があるかを説明します。Windows Server ライセンスの一般的な情報については、[Window Server ライセンス ガイド](#)を参照してください。お客様は、Windows Server Standard または Windows Server Datacenter のいずれかを選択できます。いずれの場合も、サーバー上の「物理コア」すべてについてライセンスを取得する必要があります (最小要件は、サーバーあたり 16、プロセッサあたり 8)。Windows Server ライセンスの条項では、Standard エディションの場合、ライセンス取得済みサーバーごとに実行できるインスタンスは最大 2 つで、物理サーバーと 1 つのゲスト VM (ライセンス用語で「仮想オペレーティング システム環境」または「仮想 OSE」)、あるいは 2 つのゲスト VM を実行できます。Datacenter エディションの場合、ライセンス取得済みサーバーごとに実行できるインスタンスの数に制限はありません。Standard エディションのライセンスを取得したサーバーに 2 つ以上の VM を配置する必要がある場合は、サーバー上のすべての物理コアに再度同数のライセンスを割り当てて、さらに 2 つ追加でインスタンスを実行できるようにすることができます。また、VM ワークロードをサポートするためだけに物理 OSE を使用する場合、同一のライセンスでホスト オペレーティング システムとして Windows Server の使用が許可されます。ライセンス取得済みサーバー間でワークロードを移動する場合は、それぞれのサーバーにワークロードに対応した完全なライセンスが付与されている必要があります。サーバー ファーム間のライセンス モビリティは Windows Server では利用できないため、各サーバーにはピーク容量を常に考慮したライセンスを付与する必要があります。

お客様が所有するサーバー上の VM で Windows Server を実行する代わりに、「Azure ハイブリッド特典」を利用して Azure 上の VM で Windows Server を実行することもできます。Windows Server ライセンスにソフトウェア アシュアランスを契約しているお客様は「Azure ハイブリッド特典」を利用できます。この特典では、対象の Windows Server のコア ライセンス 16 個につき VM を 2 つまで使用できます。つまり、16 個の Windows Server コア ライセンス 1 セットを Azure に割り当て、1 つの Azure 基本インスタンス上で 1 ～ 16 の仮想コアを持つ 1 つの VM を実行したり、1 ～ 8 の仮想コアを持つ 2 つの VM を実行したりできます。8 個のコア ライセンスを 1 セットとして追加で割り当てると、大規模な VM やさらに多くの VM を実行できます。いずれの場合も、Azure 基本インスタンスの料金が発生しますが、大幅な節約になります。詳細については、[Azure ハイブリッド特典](#)をご参照ください。Azure ハイブリッド特典に関する使用条件は、[製品条項](#)の Microsoft Azure 製品のセクションに記載されています。

サーバー ソフトウェア ライセンスのほかに、コア ベース/CAL ライセンス モデルに基づいてライセンスを取得しているサーバーにアクセスするユーザーまたはデバイスには、アクセス ライセンスが必要です。このモデルのアクセス ライセンスには、エクスターナル コネクタ ライセンスとクライアント アクセス ライセンス (CAL) があります。

1 つのエクスターナル コネクタ ライセンスごとに任意の数の外部ユーザーが、仮想化されたワークロードを実行しているサーバーなどの 1 台の特定サーバー上のサーバー ソフトウェア インスタンスにアクセスすることができます。このとき、アクセスできるインスタンスの数に制限はありません。エクスターナル コネクタは、サーバー ソフトウェア ライセンスのように、1 台のサーバーに割り当てる必要があります。また、短期間で再割り当てすることはできません (ハードウェアの恒久的な故障によってサーバーを廃棄する場合を除く)。ただし、ライセンス モビリティの権利は Windows Server ライセンスでは提供されておらず、ソフトウェア アシュアランス付きの Windows Server エクスターナル コネクタ ライセンスにのみ適用されます。つまり、ワークロード モビリティを利用できるのは、オンプレミス サーバーへの外部ユーザーのアクセスに関してのみということです。

製品

ライセンス

CAL はユーザーまたはデバイス単位で購入可能です。1 つの CAL ごとに 1 人のユーザーまたは 1 台のデバイスが、任意のライセンス取得済みサーバー上のサーバー ソフトウェア インスタンスにアクセスできます。その意味では、オンプレミスで実行されているサーバー ワークロードを仮想化しても、CAL の割り当て方に影響はありません。ただし、Azure ハイブリッド特典を利用して Microsoft Azure 上で Windows Server を実行する場合、マイクロソフト オンライン サービス条件に記載されている Microsoft Azure の使用条件に従うものとし、Windows Server へのアクセスに CAL は不要となります。

また Windows Server においては、物理オペレーティング システム環境 (OSE) で実行されるサーバー ソフトウェアのインスタンスが仮想ワークロードをホストするためだけに使用される場合、そのインスタンスへのアクセスには CAL は不要です。

コア ベースのライセンス モデルの詳細については、Windows Server ライセンス ガイドのほかに、[ライセンス簡易ガイドのコア ライセンスの概要と基本的な定義](#)も参照してください。

[製品条項](#)のコアベースのライセンス モデルに含まれる製品

例：

SQL Server 2017

Standard

および SQL Server 2017

Enterprise Core

コア ベースのライセンス モデルでは、仮想コア ベースまたは物理コア ベースのいずれかの方法でサーバー アプリケーション ソフトウェアにライセンスを割り当てます。Standard Edition を実行する VM のライセンスは仮想 ベースコアのみ、Enterprise Edition を実行する VM のライセンスは仮想コア ベースまたは物理コア ベースでの取得となります。仮想コア ライセンスの場合、VM に割り当てられている仮想コアごとにコア ライセンスが必要となり、VM ごとのコア ライセンスの最小要件は 4 つです。お客様は、各ライセンス取得済み VM で任意の数のサーバー ソフトウェア インスタンスを実行できます。また、サーバー上のすべての物理コアについて SQL Server Enterprise のライセンスを取得している場合は、サーバーに割り当てられているコア ライセンス数と同じ数の VM で、無制限の数のソフトウェア インスタンスを実行できます。使用できる VM のいずれか 1 台の代わりに、物理 OSE で SQL Server を実行することも可能です。たとえば、4 プロセッサのサーバーで各プロセッサが 4 つのコアを搭載し、全 16 コアに対してライセンスを取得した場合、各 VM に割り当てられた仮想コアの数に関係なく最大 16 の VM 上で SQL Server ソフトウェアを実行することができます。

(サーバーのライセンスを完全に取得している場合に、) Enterprise Edition のすべてのコア ライセンスにソフトウェア アシュアランスを追加すると、使用権が拡張されて、任意の数の VM と物理 OSE で任意の数のソフトウェア インスタンスを実行できるようになります。これにより、流動的なワークロードに対応し、ハードウェアの計算能力をフルに活用できます。**注:** この特典は、ソフトウェア アシュアランスの契約期間満了と共に終了します。

ワークロードのモビリティをサポートする必要がある場合は、ライセンス モビリティの権利を利用できるコア ベースの製品に対して、サーバー ファーム内のライセンス モビリティの権利を使用できます。これが可能かどうかは、製品条項の各製品のセクションのソフトウェア アシュアランスに関する記述を参照してください。また、一部のコア ベースの製品では、「ソフトウェア アシュアランスによるライセンス モビリティ」の権利を利用できます。これらの権利によって、Microsoft Azure 上または認定モビリティ パートナーの共有サーバー上で VM を実行できます。「ソフトウェア アシュアランスによるライセンス モビリティ」に基づいてサーバー ソフトウェアを使用する際のライセンス条項は、製品条項の付録「ソフトウェア アシュアランス」に記載されています。この件についてのその他のガイドは、[ライセンス モビリティの概要](#)を参照してください。

製品	ライセンス
<p>製品条項のサーバー/CAL のライセンス モデルに含まれる製品</p> <p>例： Exchange Server 2016 および SQL Server 2017</p>	<p>サーバー/CAL ライセンス モデルでは、実行するインスタンスごとにサーバー アプリケーション ソフトウェアにライセンスを割り当てます。1 台のサーバー 上で複数の VM を実行している場合は、実行する各インスタンスごとにライセンスが 1 つ必要です。SQL Server には VM ごとに 1 つのライセンスが必要ですが、サーバー/CAL ライセンス モデルの例外として、その VM 内では SQL Server の複数のインスタンスを実行できます。ワークロードのモビリティをサポートする必要がある場合は、ライセンス モビリティの権利を利用できるサーバー/CAL 製品に対して、サーバー ファーム内のライセンス モビリティの権利を使用できます。これが可能かどうかは、製品条項の各製品のセクションのソフトウェア アシュアランスに関する記述を参照してください。また、一部のサーバー/CAL 製品では、「ソフトウェア アシュアランスによるライセンス モビリティ」の権利を利用できます。これらの権利によって、Microsoft Azure 上または認定モビリティ パートナーの共有サーバー上でサーバー ソフトウェアを実行できます。「ソフトウェア アシュアランスによるライセンス モビリティ」に基づいてサーバー ソフトウェアを使用する際のライセンス条項は、製品条項の付録「ソフトウェア アシュアランス」に記載されています。この件についてのその他のガイドは、ライセンス モビリティの概要を参照してください。</p> <p>コア ベース/CAL 製品に関して、サーバー ソフトウェア ライセンスのほか、サーバー/CAL ライセンス モデルに基づいてライセンスを取得しているサーバーにアクセスするユーザーまたはデバイスには、アクセス ライセンスが必要です。このモデルのアクセス ライセンスには、クライアント アクセス ライセンス (CAL) があります。CAL はユーザーまたはデバイス単位で購入可能です。アクセスするすべてのユーザーおよびデバイスに、SQL Server の CAL が必要です。Windows Server の場合とは異なり、社外ユーザーにエクスターナル コネクタのオプションはありません。SQL Server、Windows Server の場合と異なり、2013 年にリリースされた社外ユーザーの生産性サーバーへのアクセス権はサーバー ライセンスに含まれています。CAL を必要とするユーザーおよびデバイスの場合、CAL ごとに 1 人のユーザーまたは 1 台のデバイスに、お客様のライセンス取得済みサーバー上の対応するサーバー ソフトウェア インスタンスへのアクセスが許可されます。その意味では、オンプレミスで実行されているサーバー ワークロードを仮想化しても、CAL の割り当て方に影響はありません。「ソフトウェア アシュアランスによるライセンス モビリティ」を使用して仮想ワークロードをデータセンターからパブリック クラウドに移動する場合、お客様は、そのサービスの契約条件に準拠し、CAL のソフトウェア アシュアランスを確保する必要があります。</p>
<p>製品条項の管理サーバーのライセンス モデルに含まれる製品</p> <p>例： System Center 2016 Datacenter System Center 2016 Standard</p>	<p>管理サーバー ライセンス モデルの System Center におけるサーバー管理には、物理コアごとにライセンスが割り当てられます。お客様は、サーバーのライセンス取得に System Center Standard または System Center Datacenter のいずれかを選択できます。いずれの場合も、サーバー上の「物理コア」すべてについてライセンスを取得する必要があります (最小要件は、サーバーあたり 16、プロセッサあたり 8)。System Center ライセンス条項では、Standard エディションの場合、ライセンス取得済みサーバーごとに管理できるオペレーティング システム環境は最大 2 つで、物理オペレーティング システム環境と 1 つのゲスト VM (ライセンス用語で「仮想オペレーティング システム環境」または「仮想 OSE」)、あるいは 2 つのゲスト VM を管理できます。Datacenter エディションの場合、ライセンス取得済みサーバーごとに物理オペレーティング システム環境と無制限の VM を管理できます。Standard エディションのライセンスを取得したサーバーで 2 つ以上の VM を管理する必要がある場合は、サーバー上のすべての物理コアに再度同数のライセンスを割り当てて、さらに 2 つ追加で VM を実行できるようにすることができます。また、VM ワークロードをサポートするためだけに物理 OSE を使用する場合、同一のライセンスで System Center はホスト オペレーティング システムに加え 2 台の VM を管理できます。ライセンス取得済みサーバー間でワークロードを移動する場合は、それぞれのサーバーに、ワークロードで実行されている VM の管</p>

理をサポートする完全なライセンスが付与されている必要があります。ワークロードのモビリティをサポートする必要がある場合は、ライセンス モビリティの権利を利用できる管理製品に対して、サーバー ファーム内のライセンス モビリティの権利を使用できます。これが可能かどうかは、製品条項の各製品のセクションのソフトウェア アシュアランスに関する記述をご覧ください。また、一部の管理製品では、「ソフトウェア アシュアランスによるライセンス モビリティ」の権利を利用できます。これらの権利によって、Microsoft Azure 上または認定モビリティ パートナーの共有サーバー上で実行中の VM を管理できます。「ソフトウェア アシュアランスによるライセンス モビリティ」に基づいてサーバー ソフトウェアを使用する際のライセンス条項は、製品条項の付録「ソフトウェア アシュアランス」に記載されています。この件についてのその他のガイドは、[ライセンス モビリティの概要](#)を参照してください。

注: ライセンス取得済みサーバーの管理に使用しているサーバー上で管理コンソールを実行するために、別途ライセンスは必要ありません。

サーバー管理のライセンスと System Center 2016 の詳細については、[System Center のライセンスのページ](#)を参照してください。

[製品条項](#)の特殊サーバーの
ライセンス モデルに
含まれる製品

例:

Windows Server 2016
Essentials

特殊ライセンス モデルに含まれる製品のライセンス条件は、製品ごとに異なります。ここでは、Windows Server Essentials の概要について説明します。1 つの Essentials ライセンスで 1 台のサーバーを利用できます。お客様は 1 つの物理 OSE および 1 つの VM 内でサーバー ソフトウェアを実行できます。この VM では Windows Server Essentials のみを実行できます。許可されたインスタンスを両方実行する場合、物理 OSE 内のインスタンスは VM の管理のみに使用することができます。特殊サーバー ライセンス モデルでライセンスを取得したその他の製品の仮想化の権利については、製品条項を参照してください。

以降のセクションでは、サーバー ライセンス モデルの例を示し、特定の製品の強化点について説明します。

実行するインスタンスごとのライセンスの取得

Exchange Server ではライセンス 1 つにつき、そのライセンスが割り当てられているサーバーで 1 つの Exchange Server のインスタンスを実行する権利が与えられます。お客様は物理 OSE または VM のいずれかでこのインスタンスを実行できます。お客様は、任意のサーバーまたはストレージ メディアに、任意の数の Exchange Server のインスタンスを作成し、保存することができます²。下の図 1 のように、お客様がサーバー A に Exchange Server を割り当てた場合、物理 OSE または VM 内で Exchange Server のインスタンスを 1 つ実行できます。

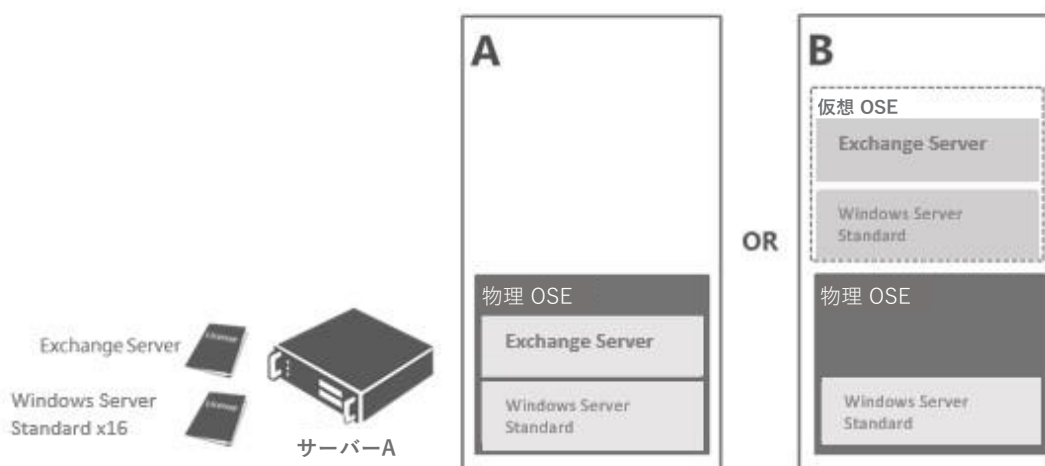


図 1：物理 OSE または仮想 OSE における Exchange Server インスタンスの実行

次の図 2 では、記憶域ネットワーク (SAN) に 6 つの VHD ファイルが含まれており、個々のファイルに Windows Server のインスタンスと Exchange Server のインスタンスがあります。追加インスタンスのサポートを必要とするドメインに応じて、2 つの VHD ファイルがライブラリからサーバーへ同時に展開されます。この SAN のシナリオは、ライセンス モデルによって柔軟な展開が可能になることを示しています。128 ライセンス (16/サーバー) を取得する必要はなく、Windows Server Standard の 16 ライセンスのみをサーバー A に割り当てただけです。これは、ライセンス取得済の各サーバーに対して、Windows Server の 2 つのインスタンスを実行できるからです。

Exchange Server についても同様に、8 つのライセンスを取得する必要はなく、2 ライセンスを割り当てるだけで済みます。これは、同時に実行される Exchange Server のインスタンスが 2 つだけだからです。また、それらのライセンスをサーバー A に割り当てると、サーバーのハード ディスクや SAN といった任意のサーバーまたは記憶媒体に、任意の数の未実行の Windows Server インスタンスと Exchange Server インスタンスを作成できます。

なお、低密度な仮想化環境を必要としているお客様は、サーバーのライセンスを完全に割り当て直すことにより、より多くのインスタンスを実行する権利を得ることができます。たとえば、次の図では、サーバーに 1 つの Windows Server Standard ライセンスが割り当てられています。このライセンスは、

² ソフトウェアのインスタンスを実行する権利の行使のみを目的として、ソフトウェアのインスタンスを作成することができます。たとえば、組織外へのソフトウェアの配布を可能にする目的で、ソフトウェアのインスタンスを作成することはできません。

仮想環境で使用する マイクロソフト サーバー製品のライセンス

VM 内で 2 つのインスタンスを実行し、物理 OSE 内で 1 つのインスタンスを実行することを許可します (VM のホストと管理のためだけに使用される)。お客様が同じサーバーのライセンスを完全に割り当て直した場合、最大 2 つの追加インスタンスを実行することができます (同時に最大 4 台の VM)。高密度な仮想化環境を作成することを希望しているお客様は、Windows Server Datacenter ライセンスを割り当てて、ライセンス取得済みのサーバー上で無制限に Windows Server インスタンスを実行することができます。

各 VHD ファイルには Exchange Server と Windows Server 2012 R2 Standard のインスタンスがそれぞれ 1 つ含まれる

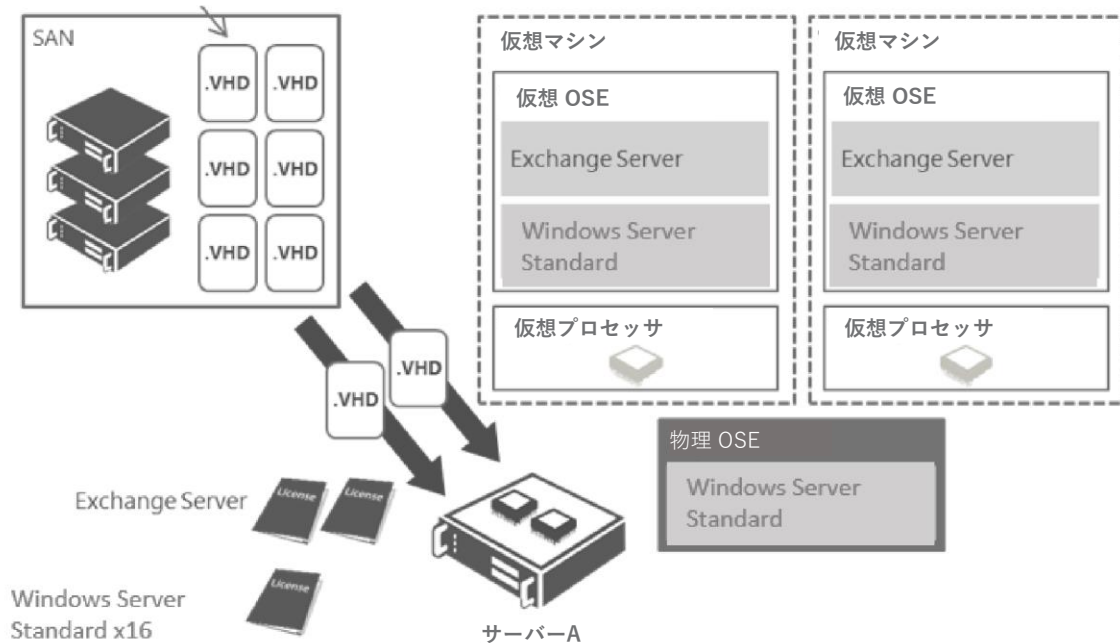


図 2: SAN シナリオへのライセンス モデルの適用

ソフトウェアのインスタンスの移動

ソフトウェアのインスタンスを移動できることは、サーバー間でワークロードの移動が発生するデータセンターにとって理想的です。データセンターがサーバー ブレード、ラックマウント サーバー、または仮想化テクノロジーを使用しているかどうかに関係なく、「ライセンスを取得したサーバー」間でソフトウェアのインスタンスを簡単に移動することができます。

たとえば、図 3 では、お客様はサーバー A とサーバー B にそれぞれ Windows Server Standard のライセンス 1 セットと Exchange Server のライセンス 1 つを割り当てています。最初は、Exchange Server の 1 つのインスタンスがサーバー A で実行されています。サーバー A が過負荷の状態になった場合は、Exchange Server の実行中のインスタンスをサーバー B に移動することができます。これは、サーバー B にも Exchange Server ライセンスが割り当てられているためです。お客様はサーバー A で同時に最大 2 つの Windows Server Standard のインスタンスと 1 つの Exchange Server のインスタンスを実行す

仮想環境で使用する マイクロソフト サーバー製品のライセンス

ることができます。同様に、サーバー B では同時に 2 つの Windows Server Standard のインスタンスと 1 つの Exchange Server のインスタンスを実行できます。

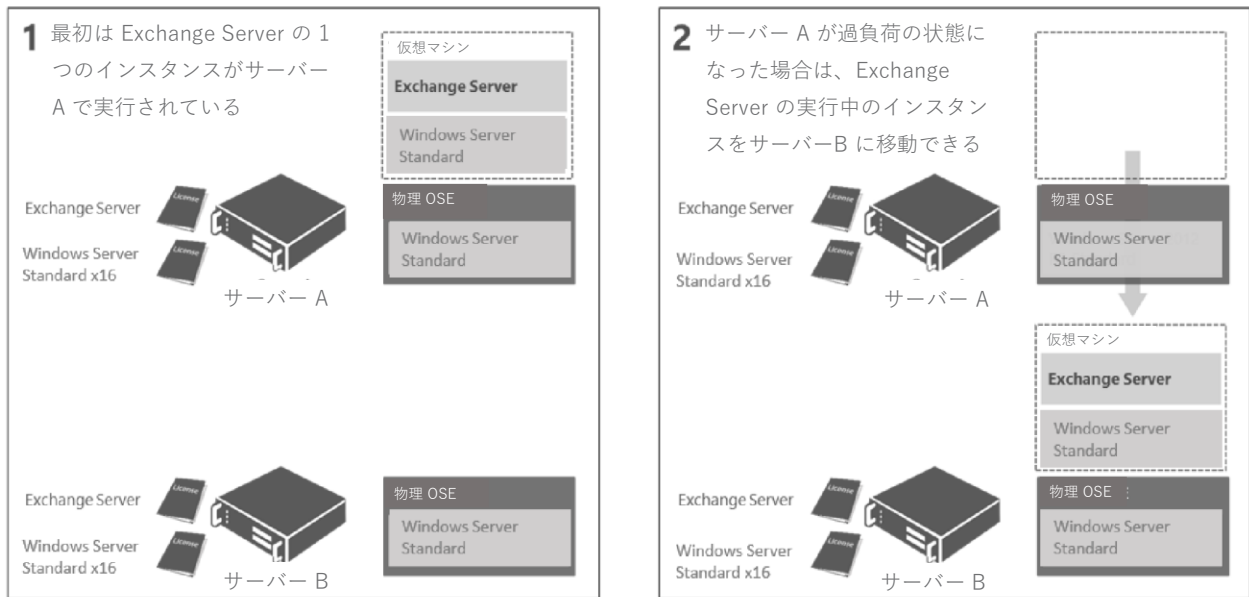


図3：サーバー間のソフトウェア インスタンスの移動

ソフトウェア ライセンスの再割り当て

ソフトウェア モビリティは、仮想化されたサーバー間でのワークロード バランスをサポートします。しかし、モビリティをフル活用するには、ライセンス モビリティが必要です。ソフトウェア インスタンスを一方のサーバーから別のサーバーに移動することは、ソフトウェア ライセンスを一方のサーバーから別のサーバーに再割り当てすることと同じではありません。ソフトウェアの「インスタンス」の移動は、一方のライセンス取得済みサーバーからもう一方のライセンス取得済みサーバーへソフトウェア ビットを移動することを意味します。一方、ソフトウェアの「ライセンス」の再割り当ては、ライセンスを別のサーバーに割り当てて、このサーバーをソフトウェアの実行ライセンスを取得したサーバーにすることを意味します。短期間でのライセンス再割り当ては、ライセンス条件によって禁止されています。ライセンスの移動は 90 日間に 1 回のみ可能です。

たとえば 図 4 では、Windows Server インスタンスと Exchange Server インスタンスをサーバー A からサーバー B へ移動し、これらのインスタンスの実行ライセンスをサーバー A からサーバー B へ再割り当てしています。ライセンスの再割り当てを行わないと、サーバー B はインスタンスを「実行」できません。ライセンスの再割り当てにより、サーバー B が新たにインスタンスの実行ライセンス取得済みサーバーとなり、サーバー A はライセンス取得済みサーバーではなくなります。サーバー A にライセンスを戻したい場合は、90 日間待つ必要があります。

特定のサーバー ソフトウェア ライセンスの場合、ソフトウェア アシュアランスにより、サーバー ファーム内にライセンス モビリティ特典が追加されます。つまり、90 日間待つことなくサーバーからサーバーへのライセンスの移動を行えるということです。サーバー ファームの定義と、サーバー ソフトウェア ライセンス モビリティの詳しいルール、対象サーバーおよびエクスターナル コネクタ ライセンスのリストについては、[ライセンス モビリティの概要](#)を参照してください。

複数の OSE を使用するクライアント デバイスの ライセンス取得

デバイス上の VM の数に関係なく、サーバー ソフトウェアにアクセスするデバイスごとに、デバイス CAL が 1 つ必要になります。次の図 5 に示すように、デスクトップ PC に複数の VM³ があり、それらの OSE がサーバー A およびサーバー B の Windows Server に個別にアクセスしている場合でも、デスクトップ PC⁴ に必要な CAL は 1 つだけです。

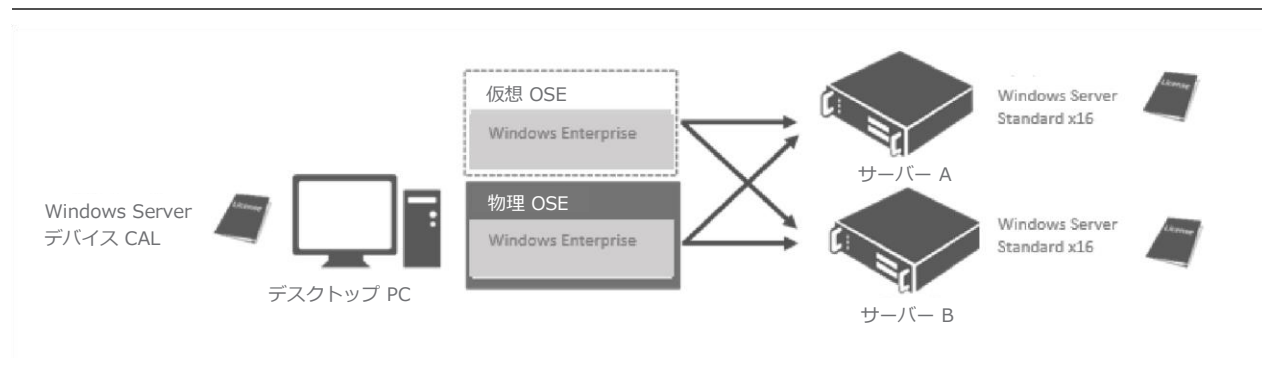


図 5 : デバイスの OSE ごとではなく、デバイスごとに供与されるデバイス CAL

製品条項 に別途記載されていない限り、CAL によってアクセスが許可されるのは、サーバー ソフトウェアと同じか以前のバージョンのインスタンスだけです。将来のバージョンへのアクセスは許可されません。ダウングレード権に基づいて実行されている以前のバージョンのインスタンスにアクセスする場合は、実行しているソフトウェアのバージョンに対応する CAL を使用することができます。

管理 OSE ごとに、またはユーザーごとに供与される管理 ライセンス

管理サーバー ライセンス モデルに基づく Microsoft System Center で管理するデバイスにライセンスを取得するには、適切な管理ライセンス (ML) を取得して、管理対象の OSE または VM または VM のユーザーに割り当てる必要があります。ML には、対応する管理サーバー ソフトウェアおよび SQL Server テクノロジーを実行する権利が含まれています。

³ ソフトウェアのインスタンスを実行する権利の行使のみを目的として、ソフトウェアのインスタンスを作成することができます。たとえば、組織外へのソフトウェアの配布を可能にする目的で、ソフトウェアのインスタンスを作成することはできません。

⁴ 仮想化テクノロジーを使用する場合でも、マルチプレキシング (多重化) のルールが CAL に適用されます。図 5 では、複数のデバイスまたはユーザーへのアクセスのプールにサーバー A およびサーバー B が使用されている場合、それらのエンド ユーザーとデバイスごとに CAL が必要です。[製品条項](#)の「共通の使用条件」にある「マルチプレキシング (多重化)」を参照してください。

サーバー以外（クライアント）に必要なライセンス

クライアント ML には、管理対象の OSE 用とユーザー用の 2 種類があります。いずれかまたは両方の種類を組み合わせる選択することができます。仮想化クライアントまたは複数のデバイスのユーザーは、ユーザー単位のオプションが経済的な選択である場合があります。

OSE クライアント ML

各 OSE クライアント ML により、お客様は、管理サーバー ソフトウェアを使用して 1 つの OSE を管理することができます。その OSE は任意の数のユーザーが使用できます。本項の規定に従い OSE クライアント ML を取得してデバイスに割り当てた場合、お客様はそのデバイス上の OSE を管理することができます（ライセンスごとに OSE 1 つ）。デバイスに複数の VM がある場合、お客様は各 VM の ML とホスト OSE が必要です。

ユーザー クライアント ML

各ユーザー クライアント ML により、お客様は、管理サーバー ソフトウェアを使用して 1 名のユーザーの VM を管理することができます。それらの VM は任意の数のデバイスで使用できます。本項の規定に従いユーザー クライアント ML を取得してユーザーに割り当てた場合、お客様はそのユーザーが使用するすべての VM を管理することができます。1 つの VM を複数のユーザーが使用しているが、OSE によるライセンスを取得していない場合、OSE を使用している各ユーザーにユーザー クライアント ML を割り当てる必要があります。

場合によっては、種類の異なるクライアント ML を利用できることもあります。Enterprise CAL Suite と Core CAL Suite、ならびに対応する CAL Suite ブリッジはデバイス クライアント ML です。デバイス クライアント ML により、お客様は管理サーバー ソフトウェアを使用して デバイス上のすべての OSE（ホストおよびすべての VM）を管理することができます。これらの OSE は、任意の数のユーザーが使用できます。これは、仮想環境または共有環境に適しています。ここで説明したように、お客様はデバイス クライアント ML を取得し、デバイスに割り当てます。したがって、これらのデバイス上ですべての VM とホスト OSE を管理することができます。どのスイートで管理が行われるかについては、製品条項の System Center 製品項目をご覧ください。

その他のリソース

- ▶ [ライセンス ガイド](#)
 - [コマーシャル ライセンス ガイド](#)
 - [SQL Server 2016 ライセンス ガイド](#)
 - [Windows Server 2016 ライセンス ガイド](#)
- ▶ [マイクロソフト 仮想化 ソリューション](#)
- ▶ [ライセンス モビリティ 概要](#)

- ▶ [ライセンス簡易ガイド](#)
 - [仮想化テクノロジーを使用する Windows Server のライセンス](#)
 - [コア ライセンスの概要と基本的な定義](#)
- ▶ [ボリュームライセンス製品条項](#)
- ▶ [Microsoft License Advisor](#)

© 2017 Microsoft Corporation. All rights reserved.

本資料は、ライセンスを取得した製品の許可された使用について説明したものであり、製品説明書またはお客様とのボリューム ライセンス契約ではありません。マイクロソフトは、明示または黙示に関わらず、これらの情報についていかなる責任も負わないものとします。(2017 年 12 月発行)